

【テーマ2:「新たな教師の学び」を実現するための「やまがた学校改革ネットワーク」の構築

-研修プログラム「学校改革マネジメント講座」の開発と研修環境デザイン「学びカフェ」の導入を通して-

【山形大学】

山形県教育委員会
山形県教育センター
学校改革マネジメント講座(以下、学校マネジメント講座)の
受講生が勤務する学校 17校
そのうち、「学びカフェ」を設置した学校 6校
やまがた学校改革推進協議会

モデル開発概要

現場における課題

- ◆ 日本の教師は、研修時間を十分に確保されていない。
- ◆ 校外研修とその成果の学校への還元を、教員個人に強く依存するシステムになっており、学校組織全体の協働的な学びに波及する手立を欠いている。

モデルの概要

- ◆ 新たな研修プログラムを教育委員会と連携して開発し、その運用と校内研修への波及のための対面・リモート環境を拠点校に整備する。同時に、それらつなぐオンラインネットワークを構築し、質の高い教職員集団を形成・活性化する。

活用する技術・ツール等

- 気軽におしゃべりできる研修対話空間の設置
- WebClassとZoomを活用したオンラインネットワーク

高度化に資する取組

- 1 新たな研修プログラム「**学校マネジメント講座**」を大学と山形県教育センターが連携して新設し、受講生が、年間を通して勤務校の学校改善をテーマとした実践プランを展開する。
- 2 受講生が勤務する学校に「**学びカフェ**」(写真参照)を設置し、学校内の対話空間の変容を図る。
- 3 「**学びカフェ**」をオンライン空間でつなぎ、大学教員が、個別相談で、支援する(**やまがた学校改革ネットワーク**)。
- 4 以上により、学校現場の実践プランの展開と、校外研修(学校マネジメント講座やオンライン空間での支援)を最適に組み合わせる教員研修システムを構築できる。

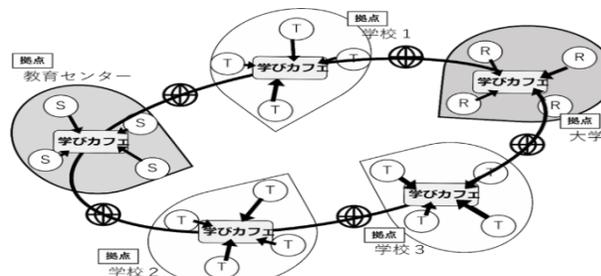


図5 やまがた学校改革ネットワーク S:指導主事、T:教師、R:研究者



モデルを活用する上でのポイントや期待される効果

- ・「**学校マネジメント講座**」に参加する事前課題等を設けない。講座に参加して資料を読んだり、受講生同士で対話したりする。
- ・「**学びカフェ**」は自由参加とし、互いの人となりが見えてくるような対話を企てる(open,transparent,flexible,accountableが原則)。
- ・個人の学びと並行して学校の変化を実感できたり、同僚との関係性の変容や学校経営への参画意識の向上が期待される。